

古河中等瓦版

発行部
文藝部
2017年7月
特別号



さまざまな切り口で生命に迫る

2013年、あのダイオウイカブームを巻き起こした特別展「深海」が戻ってきた。7月11日から10月1日まで、国立科学博物館で特別展「深海2017」が開かれる。深海の巨大生物だけではなく、生命の起源、地球だけではなく宇宙の神秘にも迫る見所満載の特別展だ。

人類の深海への挑戦

2年前、海洋研究開発機構の藤倉克則先生に話を持ちかけた。さらに多くの研究者に声を掛けて生まれたのが今回の企画だ。国立科学博物館の倉持利明先生は語る。深海、生命、地球に関する研究者を集め、成果を出すという目標が今回の特別展には秘められており、一番の苦労でもあった。その苦労の中で、石油天然ガス・金属鉱物資源機構の協力は大きかった。レアメタル、メタンハイドレートなどの次世代資源やエネルギーの研究にも触れることができたのだ。

腕だけの展示の真実

ダイオウホウズキイカは、南極海にのみ生息する。捕獲記録が少なく、写真ですら貴重なほどである。全身標本となるとわずかに2個体のみで、いずれもニュージールランドの博物館が所有する。今回その標本を深海の巨大生物の目玉にしたかった。ニュージールランド側に掛けたところ、不可能ではないという返事をもたらすことができた。その後、1年経って

も返事をもたらすことができない。直接交渉にニュージールランドを訪問しようとした矢先、貴重な標本を破損させては取り返しがつかないという理由で、断られてしまった。しかし、あきらめきれない。展示からはずしたくはないという強い気持ちで探し回り、大英自然博物館から腕を借りることができたのだ。苦労の末の貴重な展示物だ。



ダイオウホウズキイカの腕の標本



藤倉克則研究分野長(海洋開発機構)

人類は地球からどのような恵みを受けているかということをもっと学んでほしい。

The comic strip is divided into several panels:

- Panel 1:** A scientist says, "新種といってもまだ正式に決まらないうわい。" (Even if it's a new species, it's not officially decided yet.)
- Panel 2:** A scientist says, "動物研究部長の倉持さん一推しの展示はセキトリイロシの仲間の新種である" (The exhibition by Mr. Kurahashi, the head of the animal research department, is a new species of my relatives.)
- Panel 3:** A scientist says, "吾輩は魚である。名前はまだ無い。" (I am a fish. My name is still missing.)
- Panel 4:** A scientist says, "魚の研究は18世紀から進められているので、もの大きな魚の新種はめずらしい" (Research on fish has been progressing since the 18th century, so it's rare to find a new species of large fish.)
- Panel 5:** A scientist says, "魚の種類はすでに約4万種発見されています。日本近辺では4000種" (There are already about 40,000 species of fish discovered. In the vicinity of Japan, there are 4,000 species.)
- Panel 6:** A scientist says, "展示してある個体は神奈川県立の高橋が持っている湘南丸で釣れたん" (The specimen being displayed is from the Kanagawa Prefectural University of Marine Sciences, collected by Takahashi on the Sagami Maru.)
- Panel 7:** A scientist says, "世界でこれを見たことがあるのは(記者)で、百何十番目くらいかも" (I think I'm one of the few people in the world who have seen this.)
- Panel 8:** A scientist says, "2016年2月" (February 2016).
- Panel 9:** A scientist says, "学生のハイワ実験" (Student's Hiwa experiment).

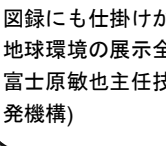
研究員見所を語る

今回の図録は、読めば「深海博士」になれるとうたわれるほどの情報量をもつ。また、仕掛けがある。展示を見た来館者それぞれが写真を追加して、オリジナルな図録を完成させられるようになっていたのだ。単なる展示物の紹介に終わらない読み物としても楽しめる図録である。

図録は深海の教科書



東日本大震災では、実際にプレートが50cmも動いたことで津波が起きたんだ。リアルタイムで、地球の動きを観測していたという事実から分かったことを見てほしい。
木村純一 上席技術研究員(海洋開発機構)



図録にも仕掛けがあるよ。そして、地球環境の展示全般を見てほしい。
富士原敏也 主任技術研究員(海洋開発機構)



本邦初公開のセクトリイワシの新種はメス。ただいま、筋肉から栄養段階を研究中だよ。
河戸勝 技術主任(海洋開発機構)



断層の摩擦熱を計るのは、なんとアナログな温度計なんだ。
しんかい6500に乗った笠谷貴史 主任技術研究員(海洋開発機構)

海は二酸化炭素の増加で酸性に近づいている。海の生物が危険にさらされていることを知ってほしい。
久保田好美 研究員(国立科学博物館)



共生は生物現象の根本。人類の元となる古細菌について興味をもってほしい。
吉田尊雄 主任技術研究員(海洋開発機構)

いるのか地球外生命体

土星の衛星エンケラドゥスから採取した物質には、生命の元となる有機物や温泉に見られるようなシリカが含まれている。これにより、エンケラドゥスの海底で熱水活動があることがわかった。熱水活動があるところでは、微生物の活動が活発化する。したがって、生命が誕生していた可能性があるのだ。今後、本当に生命体が存在するかの調査を計画 중이다。地球生命体に存在しない機能をもったものが存在していた場合、我々は、新しい機能を手に入れられるかもしれないのだ。



渋谷岳造 研究員(海洋開発機構)

もしかしたら害を及ぼす宇宙生命体を、地球に持ち込む危険も考えられるんだよ。



開幕!めざせ来場者100万人



開会式のテープカット

7月10日に行われた開会式。司会は、NHKの小野文恵アナウンサー。会場に集う人々を、開会の興奮に導いていく手腕は見事であった。主催者と来賓によるテープカットで特別展「深海2017」の幕は開かれた。

掘削船「ちきゅう」の断層調査



科学掘削船「ちきゅう」

東日本大震災が、発生した際、深海への影響を調査しなけりばならないという使命感に駆られた研究者がいた。震災発生から3日、危険な海に出し、調査へ乗出した。調査によって、大幅にずれた断層



江口暢久 科学支援部 部長(海洋開発機構)

層には、摩擦熱が残りやすく、滑りやすい物質が含まれていると判明。滑りやすい断層は大震災につながる。今後、大災害が起こる可能性が高いという。深海と災害が関係していることを、今回の特別展で知ってほしい。

「ちきゅう」に乗船して、技術者と研究者の間で専門用語の通訳をしていた。断層の採取は、超絶興奮したよ。



世界初公開 深海7000mの断層